

こづかた

No.150

令和4年11月25日発行
盛岡市教育研究所
☎019-651-4111(内7371)
印刷/セーコー印刷 651-3606

心に生きる言葉

盛岡市小学校長会長 佐々木 真



「眼聴耳視」

二十数年前、同僚が手にしていたノートに大きく書かれていた言葉だ。道元の言葉だと教えてもらった。

再びこの言葉に出会ったのは、故石川悌司先生の文章だった。「子どもの声にならない言葉を聞いてあげたり、言葉の端々から子どもの心の中を耳で見てあげたりする教師の眼聴耳視の愛情と思いやりが子どもを変える」といった内容であった。さて、本校では子どもとの面談を大切にしている。面談では子どもから丁寧に話を聞くこと

を大切にしている。そして、それらをもとに問題の背景にあるものを探し、より良い指導・支援の具体を考えようとしてきた。

そういったことが繰り返される中で心に浮かんできた言葉がある。それが先に記した眼聴耳視である。

子どもたちが悩みや困り感などを話したとしても、それらを対応の中心としては十分な解決には至らないことが多いのでは

ないかと思う。自分のことを話せない子どももいる。自分の言動を振り返ることが難しい子どももいる。

だからこそ、子どもたちの声とはならない声を聞き、子どもの姿から理解を深める眼聴耳視の姿勢が必要だと強く思うようになった。そしてまた、子どもを愛しいと思う私たちの心情も必要だと思う。眼聴耳視、私の心に生き続ける言葉だ。

最近、盛岡を舞台にした本を読んだ。この本には、自分の気持ちを話そうとしない不登校の女子高生の娘にいら立つ母親が登場する。

「言はで思うぞ、言ふにまされる」

その母親へ女子高生の祖父が

放つた一言である。これはある和歌の下の句で、口に出せずにいる思いや願いは、言葉となつて出てくるそれよりも深いという意味だと知った。この下の句もまた私の心に生き続けると思う。よい言葉に出会った。

区界高原少年自然の家で行つた第三回いきいきスクールには、児童生徒十七名の参加がありました。寒さに負けず、野外炊飯、水晶探し、山野草しおり作りに取り組みました。

いきいきスクール（十月六日）

